



地域支援コラム

1 対象校

C 小学校

2 対象児童

プール学習: プール内での体操、水に顔をつける、蹴伸び

補助具: フロートチューブ(輪っかにし、両端をビート板にあけた穴に刺したもの)

フロートチューブを浮き輪のようにして使用していました。プール内で立位はとれますが体幹が弱く、水の動きに左右されます。水が気持ちいと好感を持ちつつも、プール内では立位が安定しないため不安も感じています。

3 支援内容

学習指導(プール学習)

① プール学習での指導及び補助について

【ねらい】

次の4点を確認し共有しました。

- ・全身のリラクゼーション
- ・各関節の変形拘縮予防、可動域の確保
- ・上肢、下肢、体幹など全身の筋肉への刺激及び強化
- ・各種運動感覚の体得(浮力を利用した立位、うつ伏せなどのポジショニング)

【フロートチューブの使用について】

フロートチューブを浮き輪のような形で使用することについて、概ね現状で良いと伝えました。当該児童が体幹を意識して、うまい具合にフロートチューブでバランスをとることができています。フロートチューブの両端をビート板にあけた穴に通しており、ビート板がついている方を前側にしているため、水に顔をつける際に邪魔になっていました。場面に応じて、前後を入れ替えるように伝えました。

補助具としてフロートチューブを使っていますが、補助なしで立位をとれる力がつきつつあると感じました。マンツーマンで教員がつける体制があるなら使用しなくても良いのかもしれませんが、当該児童が不安を感じているため、今後、当該児童と相談しながら段階的に補助具を使用する場面を減らしていくことを薦めました。

(例)1年生 原則使用する。

↓

2年生 潜るときは使用しない。

↓

3年生 使用しない。

【蹴伸び】

プールの底面を蹴る際、右足だけで蹴っているので、しっかりと両足で蹴るようにした方が良いと伝えました。例えば、蹴伸びの前にジャンプして、両足でプール底面を蹴る感覚を把握してから取り組むといったことを提案しました。